

圓覚寺 護持会会報

文 殊

平成26年 新春号



慈母観音 (平成9年11月建立)



小さな命

「小さな命」という言葉をよく新聞・雑誌で目にすることがある。「小さな命」や「大きな命」ってあるのだろうか？

同じように「短い命」も、「長い命」もあるのだろうか？

平成26年
第3号

平成26年度の主な行持予定

- 1月 1日(水) 修証会(元朝互礼会) 10時・11時の2回
12日(日) 大般若法要(大般若経六百卷の転読祈願法要)
 - 2月 15日(土) 涅槃会(お釈迦様ご命日)
 - 3月 (日程調整中) 西国三十三ヶ所巡拝
3月 18日(日時調整中) 圓覚寺彼岸会(彼岸入り)
(日時調整中) 護持会決算・予算会
 - 4月 29日(火) 和敬会花祭り(当番:川北・頼光寺)
 - 5月 8日(木) 圓覚寺花まつり(釈尊降誕会)
5月 29日(木) 梅花流全国大会(島根県)
 - 7月 5日(土) 仏教文化大講演会(厚生会館)
子供禅の集い(福井県、永平寺)
 - 7月末~8月初旬 遠方棚経
 - 7月 27日(日時調整中) 圓覚寺境内作務(役員・会員他)
 - 8月 1日(金) 土師観音盆供養・夜施餓鬼(施食会速夜)
 - 8月 3日(日時調整中) 土師墓地、檀信徒お墓掃除(一軒に1人)
 - 8月 6日(水) 8:15原爆追悼平和の鐘(参加自由)
 - 8月 8日(金) 盂蘭盆大施食会(並ニ、初盆大施食会)
8月 9日(土) 綾部(早朝)・夕陽丘・羽合・新庄・岩井・野花方面棚経
8月 10日(日) 前田方面(早朝)・市内方面棚経
8月 11日(月) 土師宮町区・土師新町東区棚経
8月 12日(火) 土師新町南区棚経
8月 13日(水) 土師町区棚経
 - 8月 14日(木) 盂蘭盆(お盆参り、午前中本堂開放)
 - 8月 16日(土) 丹波大文字送り火
 - 8月 23日(日時調整中) 地藏盆参り(遠方)
 - 8月 24日(日時調整中) 地藏盆(土師新町南、地藏堂)
 - 9月 20日(日時調整中) 圓覚寺彼岸会(彼岸入り)
 - 9月 21日(日時調整中) 彼岸参り(遠方)
 - 11月 日(日時調整中) 秋の西国三十三ヶ所巡拝
日() 土師総区戦没者追悼慰霊祭(日時未定)
 - 12月 8日(月) 釈尊成道会、未修年忌供養等併修
12月 18日(木) 大すす払い
 - 12月 31日(水) 除夜の鐘・歳末調経
- 毎月1日午前6時半 読経会(朝のお勤め会)
 - 毎月第1・3金曜日 梅花講詠讃歌(日時変)
 - 毎月第1・3木曜日 梅花講詠讃歌(新講員、日時変)
 - 毎月第2・4火曜日 午前10時 寿会写経会(日時変)

圓覚寺護持会役員紹介

任期	平成二十五年四月~ 平成二十八年三月まで
総代(敬称略)	芦田 正勝 土師町
代表総代	伊東 高志 土師町
総務担当	伊東 高志 土師町
墓地管理者	佐藤 倅志 土師新町南
会計担当	伊東 康雄 土師新町南
会計監査	芦田 光二
会計監査	芦田 満

運営委員	第一班 高橋 正行 土師新町南
第二班	芦田 昌樹 全
第三班	高橋 秀宏 全
第四班	荻野 治 全
第五班	森田 典夫 土師新町東
第六班	森田 典夫 土師新町東
第七班	森田 典夫 土師新町東
第八班	森田 典夫 土師新町東
第九班	森田 典夫 土師新町東
第十班	森田 典夫 土師新町東
第十一班	森田 典夫 土師新町東
第十二班	森田 典夫 土師新町東
第十三班	森田 典夫 土師新町東
第十四班	森田 典夫 土師新町東
第十五班	森田 典夫 土師新町東
第十六班	森田 典夫 土師新町東
第十七班	森田 典夫 土師新町東

■平成二十六年年度年回表	一周忌 平成二十五年没(二〇一三)
	三回忌 平成二十四年没(二〇一二)
	七回忌 平成二十年没(二〇〇八)
	十三回忌 平成十四年没(二〇〇二)
	十七回忌 平成十年没(一九九八)
	二十五回忌 平成二年没(一九九〇)
	三十三回忌 昭和五十七年没(一九八二)
	五十回忌 昭和四十年没(一九六五)
	百回忌 大正四年没(一九一五)

【編集後記】

昨年は福知山にとって、花火大会時の爆発事故、もう一つは六十年来の大きな洪水と言う自然災害を受け、暗い一年でありましたが、円覚寺、また檀家さんにも大きな被害はなかった様で幸いだったと思っております。

さて、護持会では毎年、一回は檀家さんも参加していただく市仏教会、仏教振興会主催の研修旅行があつて、昨年も十月に堺市の臨済宗南宗寺に行つてきました。研修ですから、一軒は必ず曹洞宗に限らず他の宗派のお寺をも訪問して法話を聞いたり、寺院の内部や庭などを見学したりするのですが、建物や環境はどのお寺同じように見えてもそれぞれの歴史、寺院の中の様々な由緒などいろいろ角度から見ると大変勉強になり、建立当時の様子がいろいろと想像させられます。檀家の皆さんも、これからは出来るだけ多くの研修に参加していただいで仏教に関するより広い視野と見識を高めると共に、菩提寺円覚寺との絆と親睦を深めていければいいかなと思っております。

発行所
圓覚寺護持会会報編集部
住所/京都府福知山市土師一七七
電話/〇七七三(二七)四四四七

総務担当
伊東 高志

謹賀新春

新年明けましておめでとうございます。日頃は圓覚寺法灯護持のため、様々にご協力賜っておりまして誠に有り難く御礼申し上げます。

さて、昨年後半は痛ましい事故や災害で福知山が全国的なニュースになってしまいました。全国ニュースに留まらず世界中に発信されたらしく、六年前の記念行事の導師に来て頂いたブラジルの采川老師からお見舞いのお電話を頂き恐縮したということもありました。

私事ですが、古式に則れば今年数え六十才、還暦を迎えます。先日、お寺に入った頃から知っておられるお檀家さんにお話ししたところ、「はくっつっつー!」と声がひっくり返るくらい驚かれました。あの若かった和尚さんがそんな年になりました。

圓覚寺十七世 成田大航

て下さり誠に有り難く感謝しております。後任には伊東康雄様が総代として早速活躍して頂いております。

他所ではお寺のことに非協力的で困っているという話をしばしば聞きますが、今のところ土師村では「神仏を敬う」という古き良き教えがまだまだ残っているところであります。なんとか次世代に尊き教えのバトンタッチをお願いしたいものです。



旧山門



旧文殊堂

謹賀新年

新年のご挨拶



平成二十六年の新春にあたり、

ご挨拶を申し上げます。

檀信徒の皆様にはご家族御揃いで新年をお迎えになり謹んで御慶び申し上げます。

旧年中は円覚寺護持会の運営にご支援ご協力を賜り衷心より厚く感謝申し上げます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は円覚寺護持会役員改選にあたり、代表総代の重責を担うこととなりました。何分にも力不足で不安が先立ちますが、檀信徒、役員、皆様のご支援と力添えを賜りながら責務を務めてまい

代表総代 芦田正勝

りたいと存じます。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

現在、護持会は墓地管理者と墓地周辺の環境整備と無縁墳墓等の整理に取り組み墓地内に無縁墳墓等改葬広告看板を立てお知らせしております。広告期限内に申し出のない場合は無縁墓地として改葬する予定です。心当たりの方は円覚寺成田住職までご連絡下さいますようお願い致します。

文殊で年間の行持予定をお知らせしております。遠隔地檀家皆様のお立ち寄り下さいますようお願い

ちしております。

後になりましたが、檀信徒皆様のご健勝ご多幸を祈念し年頭のご挨拶とさせていただきます。



ラオス上座部仏教安居研修に参加して

圓覚寺徒弟 成田宗寛

衝撃的な体験でした。出発前の想像とは全く異なる世界がこんな近い国にあったことに非常に驚きました。同じお釈迦様の元で修行する私たちにとってラオスのお坊さんの修行の仕方、想いなどをどのように表現したら伝わるのかと思うと、自分にはなかなか力不足で難しいかもしれません。

まず、ラオスのお坊さんは忠実に二二七の戒律を守っておられていました。蚊を殺さない。草も抜かない。戒律に反することをしない生活でした。書物では知っていても、実際に見聞した経験はまさにカルチャーショックでした。

上座部仏教の中では戒律違反がこと細かくあり、どこがいけなくてどこまでがいいのか判断するのが難しかったです。自分が輪廻から解脱することだけを考えると瞑想する。瞑想の際に無になろうとする自分がいましたが、ラオスでは五感を全て閉じ、考えるのではなく、感じることでした。今の自分の痛みであったり、風を感じる事など、五感は閉じて心だけを動かす。そうして、自己の救済を目

指す。身体の動きはゆっくりして、まさに、ヨガの動きに似ていた感じがしました。

ラオスのお坊さんはまず、信者さんに「布施」をすることを教えます。自らの徳を高める為にする「布施」を心底から信仰しているラオスの人々の姿がありました。

朝の托鉢でその清浄な「布施」を受けるときに、いたらない自分の申し訳なさを感じたのも貴重な経験でした。母親の来世がより良い世界に生まれようようにと息子が出家すること。これは、息子が母親に出来る最高の親孝行になります。今回ラオスで引き受けて下さったラオスのお母さんだけでなくその村一帯が自分のことを実の息子の様に接して下さいたことに大変感激しました。修行中に怪我をすることなく、日本に帰る時まで本当にお世話になりました。

まず、「体験して知る」ことが重要であると改めて分かりました。日本と全く異なる仏教のシステムでつついとい大乗と小乗という上下の比較や、教えが深い浅いの



批判に終始してしまいがちな自分がいました。一週間という短い安居期間ではありましたが、それでも捨戒(還俗)式で心からわき上がってくる感動に号泣する先輩と気持ちは一緒でありました。本当にお寺に入ってみないと分からないことを沢山学びました。最後に、京都府曹洞宗青年会の皆様始め現地のSVAのスタッフの皆さんや沢山の方々の大変なご努力のおかげで、今回の様な滅多に経験することが出来ない体験が出来たことを心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。



托鉢中の筆者(右)

福知山市仏教振興会主催

千利休・沢庵和尚ゆかりの臨済宗南宗寺参拝と、特別法話の研修会に参加して

圓覚寺檀徒 高橋正

今年の研修旅行は臨済宗大徳寺派で日本最初の臨済宗大徳寺派修業道場でもあり、千利休や沢庵和尚ゆかりの寺院である大阪府堺市「南宗寺」にて老師様のご法話を特別に拝聴させて頂く研修旅行に参加しました。

南宗寺の建立は一五二六年(大永六年)京都大徳寺の住職古嶽宗巨が堺の一小院を南宗庵と改称したのが始まりと云われ、その後、畿内一三ヶ国を統一した三好長慶が父元長の追善の為、南宗寺として营造、一八七〇年(明治三年)我国最初の臨済宗専門道場が開かれ、現在大阪府下唯一の専門道場として多数の道俗(僧侶)修行の場に提供されている。大阪冬の陣での焼失時は当時の住職、沢庵宗彭と堺奉行喜多見若狭守勝重が復興に尽力、太平洋戦争等で焼失したが住職と地域住民の力で再建されている。庭園は約一万坪あり国の名勝枯山水の庭、天井に八方睨龍が見られる国の重要文化財の仏殿、千家一門のク供養塔、利休好みの茶室実相庵、また伝説の徳川家康の墓、その他三好家

一門の墓等遺蹟が多々ある。南宗寺と茶道、茶道は堺の茶人武野紹鴎及び千利休等により完成され、南宗寺初代和尚から歴代和尚に参禅することによって関係が確立され、毎年利休忌(二月二十七日)には全国各地から一門の方々が賑わいます。(説明記述から抜粋)

当日、台風二六号の影響を心配しましたが、参加者は二三寺院二一〇名(円覚寺八名)がバス三台に分かれて出発、南宗寺到着時には雨もあがり、ご住職の法話の中で仏様にお仕へ学んだ知識を多くの皆様にお伝えするのが私達の務めである。現在あるのはご先祖様のお陰であり、毎日感謝の気持ちで過す様にとの法話を参拝者一同静かに拝聴する。

ご住職の法話後、ボランティアの方々により境内の案内と遺蹟説明を受ける。昼食後、関西国際空港・国華園を見学、全員無事故で元気に帰福、有意義な研修旅行でした。

西城のお不動さん



西城お不動さんと昔から親しまれ現在まで土師町西城段で管理、お世話をしている不動尊祭りが昨年八月二十八日に行なわれました。今年、初めて円覚寺の住職と地元梅花講の有志を迎えて、お祭りの前に不動尊と無縁仏の法要をして頂きました。(写真)

さすが莊嚴で、引き締まった法要の後のお祭は、例年とは一味違い結構賑やかで地元住民の方多数お参りしていただきました。また、昔から目の不自由な人が河原で穴のあいた石を探して、その穴に糸を通してお不動さんに御願いをしたら、目が治って見えるようになったという言い伝えがあり目のお不動さんとしても親しまれています。



圓覚寺 主な動静

■本堂長椅子六脚寄付いただきまし
た

二十二脚が揃い、お盆・正月行事を除いて、ほとんどの法要を椅子でお参りしていただけるようになりました。



(施主：佐藤倅志様・芦田忠義様 (二一口)・佐藤庸司様・成田順子)

■八月十八日 地藏盆 (土師新町地蔵堂)



本来は八月二十三日ですが、近年は日曜日の夕刻にお勤めしています。



演奏で楽しませていただきました。

十一月十一日

京都府曹洞宗青年会様が今年五十周年の節目にお参りを頂きました。



■十一月十七日土師総区慰霊祭

毎年この時期に土師四区主催の戦没者慰霊祭をしていただいています。戦後六十八年経ちますが、わずか一六〇戸ほどの村から七十人以上の若者が戦火に散った戦争の悲劇は絶対に過去の物語にしてはいけません。

九月二十日秋のお

彼岸法要にて、篠山市観音寺ご住職の仏教落語を聞かせていただきました。多才な和尚さんで、落語やギター

妙智山 菩提の葉風 さわやかに

梅花の篤き 御仏に

圓覚寺梅花講員 芦田愛子

チリリンリン

円覚寺に梅花講が会講されて五十数年、先輩様が詠道に弛まぬ努力を積み重ねられたと聞いて居ます。その法の道を感じ、講員が皆んな仲良く受け継いでいます。人数が少なく成りましたが、昨年は新しい梅花講員さんが入講され、現在は十四名になりました。

御住職様初め奥様、又護持会の方々に御支援を頂きながら、詠道に学ばせて頂いています。御詠歌は奥様が丁寧にご指導下さいます。ある時は詠詞の解説やら、伝師様が修行された御様子等々、有り難いお話をして下さいます。「心の



ご詠歌像(芦田 謙 作)

闇を照らします。・」とお詠し、悟を開き、花の晨に片頬笑み・・愛語と感謝と利行を重ね、和合和睦の精心をもち、いつ迄も皆さんと共に仲良く、助け合いお寺に集い、法道に精進いたしました。思っています。

墓地整備についてお知らせ



故郷のお寺には先祖代々の墓があり、お墓にお参りときは気持ちよくお参りしていただくように、環境整備事業の一つとして墓地に隣接する山林の樹木伐採を平成二十四年十二月と平成二十五年十二月に行いました。

土師墓地は、明治二十年(一八八七年)に土師区内各地に散在していた墓をこの一画へ移転したものです。

昨今墓地周辺の木々が大きくなり、境界近くの石碑に覆り被さり薄暗く感じていました。土師山林会のご協力を得て、山林をハメートル幅で伐採整備し、空地を設けることで墓地が明るくなり、お参りされる方々に大変喜んでいただいています。

また、無縁墓地の改葬については「文殊二号(平成二十五年新春発行)でお知らせした内容にて、平成二十五年三月十一日「無縁墳墓等改葬公告」を官報号外第四十八号に公告し、同時に同じ内容の看板を墓地内に設置しました。

今後、墓地使用者等死亡者の縁故者及び無縁墳墓等に関する権利を有する方から申し出がない場合は、平成二十六年四月以降円覚寺の土師墓地管理会管理地として随時改葬を行います。



梅花講「講員募集」のお知らせ

梅花流詠歌とは、単に歌の上手下手ということではなく、ご詠歌を通して心豊かな日々を暮らしましょうという、「詠道」に励むことを目的としています。

- 一、私達は梅花流詠歌を通して、正しい信仰に生きます。
- 一、私達は梅花流詠歌を通して、仲よい生活をいたします。
- 一、私達は梅花流詠歌を通して、明るい世の中をつくります。

このお誓いを恒に心に抱きながら梅花流のご詠歌があります。

昨年入構された新講員さんも少しずつお作法にも慣れ、新しく出会ったお友達とも和気あいあいと練習に励んでおられます。

初めてでも全くご心配は入りません。お寺の静寂の雰囲気の中で、ご詠歌をお勤めする機会を持ちませんか？尚、他の講には男の方も多数おられますので、男女問わずご参加をお待ちしております。